

カテイラン

洋傘の保存法
傘立などに立てる際普通の洋傘は、誰でも柄を下にして立てますが、洋傘は柄を上にして立てます。しかし傘柄に必ず柄を下にした方がよいのです。突柄を下にしますと、水はけ悪く傘

の先に水が溜つてそこに腐敗する結果、傘が早くいたみます。それから洋傘をしまふときは、なるべく折目をつけぬやうにすることが必要です。細く巻いて止めたり袋に入れたりすると早く折り切れがします。

靴底のはががたくなるなど、どうしても早く損みますから、まづきれいに泥をどけてしまつたら、胡麻油か馬油のやうなものをつけてしなやかさを保たせ、また微少の発生や糸目が腐つたりする憂ひのないやうに、しつけのない日光のあたらない、あまり乾燥しすぎない、所にしまつていただきます。

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に読める
平町長橋町三五
川崎回文庫
(申込次第規則書進呈)

常磐文藝

大正川柳 (酒五題)

柳村 考人

飲み過ぎた口から秘密逃

出る

幣働の汗を酒屋で取替へ

る

禁酒した徳積み上る蓄金

帳

笑ひ上戸も泣ひて居る御

の酒

賞典金酒屋で封の切り初

め

□募集 文藝其他一般投稿を歓迎します

(高月會) 鴨

弾それて起つ鴨の羽に夕

日かな 松 重

夜寒さのすげなき枕鴨の

なく 揚 臺

鴨うくや沼一面の水煙り

世の中の鴨よ来て守れ千

代田城 紅 陽

囀るねて静けき夜半の潮

心平 新 影

瀟下りし橋畔に閉くや鴨

の聲 夢 吉

江の月をみださぬほどの

粹で上品な下駄を御求めの際は是非

是非

平町二丁目 (電話一五六番)

三井ハキ店

銅御殿は贅澤に非らず

建築用材として銅板を推奨す

一、銅板の特色

其の用途は屋根、樋、扇、軒、蛇腹、戸張、戸袋、煙突等、家屋内外の裝飾、日用品に至る迄

各種保護建築物として世界に誇るべき我が國の耐久力、如何に卓絶せるか數百年の今日猶古

色依然として高尚優雅なる實に贅澤を超越せる經濟的逸品たるは到底他の及ぶ處でありませ

二、焦眉の急務

震災地の復興一日を競ふの時理想的唯一の材料として本来の眞價を發揮し來たり需要益々旺盛

です、況んや此の際大なる覺醒の下に一新規劃として正に改造するべき御建築に對し切に我が

完全無缺なる銅板の御使用を御勧め致します。

三、弊店の信條

價損低廉、品質精撰、出荷迅速、誠實無比を綱領として在庫豊富に取揃へてあります。

何卒多少にかはらず御用命願ひます。

古河電氣工業株式會社 日光精銅所特約發賣元

平町五丁目

和洋銅鐵 釜屋商店

金物問屋 振替貯金口座東京一〇九五六番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

電話九番 一三九番

株式買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一一五	一一五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
日七銀行	五〇〇	五三〇
同 新	一一五	一四五
七七銀新	一一五	九五
郡山電氣	五〇〇	三七五
同 新	二五〇	一七五
只見川電	一一五	六〇
植田水電	一一五	一四五
好間水電	一一五	一三五
磐城建物	二〇〇	六五
磐城製菓	二〇〇	四五〇
平信託	一一五	一三五
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製水	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	七五
磐城炭礦	五〇〇	三八二
同 新	二二五	一五〇
磐城セメ	五〇〇	九一〇
同 新	一七五	三七〇

丸登株式

平町田町電話三三三番 川添房二一郎

福島縣石城郡平町 字長橋町五番地 常磐毎日新聞社



一月十四日夕刊

定價 一紙金貳錢 月極 五錢十三字詰 一行五十錢
廣告料 一紙金貳錢 月極 五錢十三字詰 一行五十錢
刊休 日曜 大祭 祝日の翌日
印刷所 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部
編輯人 川崎 文治
發行所 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部

大詔を讀みて

寄書 聲中教諭 小澤 丘

ウイリソン大統領によつて提唱されし國際聯盟はアメリカの不參加に依つて破れたではないか、白國の局外中立は獨逸軍に依つて直に蹂躪されたではないか、華府會議によつて議決された軍縮の結果を見ても明かである縮少どころか米國あたりは却つて擴張して居るではないか、口に正義人道理を唱くものは決して油断になるものではないといふ論は吾人の感銘すべき事である、吾人は頭が古い固い

といふ嘲笑を甘んじて受けよう敢然として後者を取らう。吾人は軍備の如きは全廢し理想的文明の世界たらしむる事は至極賛成である然れ共事實の證明を如何にせん。論者或は言はん然らば何故進んで平和な世界たらしむべく努力せぬかと吾人は本館として争闘性を有するものなれば争ひといふものは決して免ぬべきものにあらずと答へ度い。個人の生命財産と個人の争ひは國家の法律によつて保護せられ、裁判せらるゝものなれど國家と國家の争ひは之を裁断すべき最上無限

の權力あらざるを以て此の葛藤にして相互の主張を曲げざるに勢ひ平和手段を以て解決する事は必ず之の威力に訴ふるの止むを得ざるに至るであらう。此の威力の使用は即ち戦ひの外ならず然らば戦ひは國家の意思を貫徹する最後の手段にして其の勝敗の歸する所は國家の興亡消長に至る大の關係を有するや言を俟たず之を要するに國と國と社會と社會と存在する所必ず其の間に争ひといふものはある。我等は自國の主權を主張し得るだけの實力を具備したい、是我國の如き經濟的方面に制限せらるゝ國にあつては國民の自覺に訴へて益々國力を充實すると共に國民の氣力を旺盛にする必要ありとする所以のものである。(續)

欢呼の賑ひに満つ

御慶事當日の平町

晝は旗の波、夜は提灯の海

意匠を凝した街路裝飾

國民が舉つて喜びに満ちる
の紀念すべき来る廿六日の
攝政宮御慶事當日には平町
に於て午前八時を期し縣社
子會社頭に

官民參 集祝賀の式

典を舉げ且つ伊坂町長は町
民を代表して誠意を傾注し
た賀表を宮内省に奉呈する
等であるが午前九時からは
可憐な小學兒童の旅行列が
全町を練り廻つて

祝福の町と化さし

夜は青年團が平商業學校
に集合假裝其他の變つた珍
趣向を凝して樂隊を先登に
振つた提灯行列を試み一方
各町は夫々戸毎々に國旗
を掲揚し夜は軒提灯をとも
して間断なく打揚げらるゝ
煙花と共に欢呼の

賑ひを 現出する就

中平驛前新道通りや舊郡役
所前通りにては紅白段々の
幔幕にて街路を裝飾する爲
め既に準備に着手したとの
事である

銀行組合

同盟協議

昨日磐銀樓上

石城郡銀行組合同盟會は十
三日午後一時半から磐城銀
行樓上に於て開會、出席者
十五名にして定期預金、當

座預金、特別當座預金、貯
蓄預金等の對子決定に關す
る件を附議して午後二時半
閉會し午後三時から谷口樓
に懇親會を催した

平驛の収入が

震災影響を語る

正月十日間に
平驛の正月元日から十日迄
の統計に依れば昨年同様に
比較して収入が非常な膨脹

樂觀を許されぬ

役場敷地の買収

各委員がライスカレで

空腹を満たしながら熟議

平町役場敷地買収は石川ト
ヨ、松崎恒吉の兩地主が不
承諾を洩らした爲め一頓挫
を來したが其後新築委員が
數回に亙つて折衝を試むる
と雖も、先祖傳來の土地で
あるからとの理由を以て仲
々に應じ兼ねまじき強固な
態度を示して居るので本日
も午前九時から新築委員が
役場に集合し伊坂町長や伏
見助役と共に議を練つたが
見助役と共に議を練つたが
容易に解決點が發見されず
各委員は一皿のライスカレ
一で空腹を満たし午後迄協
議を續けたが前途に樂觀を許
されぬものがあるらしい

放牧地

問題の村長

御代氏が再選

放牧地問題で惱んで居る石
城郡磐崎村の村長御代武兵
衛氏は十五日を以て任期が
満了する爲め去る十二日の
村會にて選挙の結果再選し
た

石城郡の

町村長會議

郡長の招待宴

石城郡町村長會議は十五日
午前十時から郡議事堂にて

開かれ左記事項 閉會し午
後三時から谷口樓の佐瀬郡
長招待宴に臨む由
(指示事項) 町村行政事務
刷新に關する件、町村稅
徵收に關する件、海軍志
願兵募集に關する件、林
業に關する件、(協議事
項) 御慶事奉祝記念事業
に關する件、町村會議員
會開催の件

飯野助役認可

石城郡
飯野村助役箱崎才三郎氏は
當選認可申請中の處十二日
附にて知事から認可さる

世話の厭た

平署に願出で
平町字鎌田町木賃宿渡邊タ
マ方に居住中の茨城縣新治
郡小伊勢村大字大増生れ小
田川トヨ(六四)は去る大正
三年中前記木賃宿に來り身
体の自由を失ひ近所に住む

不平受付

餅行商人大澤歌吉の世話に
なて露命をつないで居た
が此頃では命且夕に迫つた
爲め大澤は役場に引取つて
貰ひ度いと本日平署に訴へ
出た

眞性慾問題

眞性慾問題(暫) 閉止
つて居るが、未開の國民では婚姻が早きに過ぎ、文明
の國では婚姻が遅きに失する傾向を免れない。メチニ
コフと云ふ生物學者は人生の不自然生活を頻りに嘆い
たが、其の云ふ所は、現代の青年が心身の發育頂點に
於て結婚する事の出来ないのは人生の破壊である(續)

眞面目な問題

眞面目な問題(暫) 閉止
更年期と云ふが、此れも多少の
遲速は免れない。日本人では十
三、四年で始まつて四十三、四
年頃までは月經のあるが普通で
ある。月經が始めれば性の活動が
開始されたものであるが、身心
の發育はまだ完成したわけでは
ない。肉體の發育が極點に達し
た頃に子を産むのは最も理に叶

常磐片々

役場新築敷地の地主が先祖

傳來の土地故賣れぬと宣ふ

土地を賣らば先祖は地下

に泣かぬものと信じて居る
處が見上げたものだ

しかし先祖が泣かねば新築

委員様が暇つぶしをして腹
をへらしライスカレーを食
べても知らぬ顔とはチト聞
わませぬ

先祖傳來の土地が町發展の

基礎となつたら地下に泣く

處か笑へやしないかと思ふ
が眞土に電話かきかぬから
問合せは出来ない

小学校經營の

新しい第一歩

視察委員が

郡内三校に

縣内小學校中の自然的活動
を主とした教授訓練に關し
特に努力しつつある學校經
營の施設を視察する爲め來
る廿一日午前八時から本縣師
範男子附屬小學校主事本縣
視學委員小澤恒一氏は四倉
小學校に至り又女子師範附
屬校主事本縣視學委員吉澤

信一氏も植田、窪田兩小學
校の各科教授の實際其他を
視察する筈で此視察の結果
は縣内各小學校に報告され
るといふから教育者にとつ
ては多大の參考資料となる
だらうとの由

美善

美善(集募) 小 町字古港漁夫
小野松太郎の
養子平吉は十
三歳の尋常六
年生であるが
爲め昨年四月頃から一日も
欠かさず同町新町醬油醸造
業緑屋の醬油を行高し其の
収益を以て學費に當て孝心

深い爲めに附近の評判であ
る

社會課の

活動 眞映寫

夏井青年團が
石城郡夏井村青年團にては
去る十一月午後七時から同
村小學校にて本縣社會課の
教育活動寫眞會を催した

平町人事

△出 生
△南町 龜山時次長男正邦
△搔槌小路 鷲谷三郎二男
富雄
△三丁目 立原豊吉長女初

子
△彌宜町 塚越寅次二女ヒ
ツ子

△南町 五十嵐三穂司二男
勝美

△古鍛冶町 中島勘次郎二
男光吉

△一丁目 天下井千代吉二
女キミ

△胡摩澤 當時山形縣山形
市香澄町齋藤常雄長男一
郎

▲婚 姻
△搔槌小路 市川富治(三
二) 石城郡錦村大字大倉
根本フヂ(三二)